

平成29年度地域包括支援センター事業評価
⑪ 小金地域包括支援センター

評価指標の定義

- 4:大変よくできている
- 3:ある程度できている
- 2:あまりできていない
- 1:まったくできていない

松戸市

平成30年7月

1. 組織／運営体制

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項
①地域包括支援センター「事業計画」が適切に作成・実行されているか。		4	3.8		
評価の根拠	ア. 「事業計画」に委託契約仕様書の内容は網羅されている／いない	いる			
	イ. 「事業計画」を法人として決定している／いない	いる			
	ウ. 担当圏域やセンターが抱える課題を把握した上で、平成29年度の事業実施に当たっての重点業務を決めている／いない	いる			
	エ. ウが「いる」の場合、重点業務の具体的な内容【自由記入】	地域個別ケア会議により多くのケアマネが参加出来るよう、会議の傍聴を可能にし積極的に参加を呼びかけた。			
	オ. 「事業計画」の進捗状況のチェック及びチェックに基づく業務改善の具体的な実施方法【自由記入】	事業改善計画を作成し、内部会議において具体的な取り組みを確認した。事業毎の年間計画を作成し、月単位で進捗状況を確認を行った。また、実施直後の朝礼時に内部共有を行った。			
	カ. その他【任意・自由記入】	前年度の事業評価の結果をもとに業務改善計画を作成し、その後の取り組みに活かしている。事業計画を作成する際は、各事業を通じて行なったアンケート等を参考にしている。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項
②担当する圏域における高齢者人口及び世帯の把握を行っているか。【29.4.1現在】		4	4		
評価の根拠	ア. 担当する圏域の65歳以上の高齢者人口【時点・人数を記入】	H 29 年 4 月 1 日現在 (10,620)人			
	イ. 担当する圏域の65歳以上の独居世帯の数、高齢者世帯の65歳以上の高齢者数【時点・世帯数・人数を記入】	H 29 年 4 月 1 日現在 独居世帯数(2,635)世帯 65歳以上の高齢者世帯の高齢者数(6,819)人			
	ウ. 担当する圏域の75歳以上の高齢者人口【時点・人数を記入】	H 29 年 4 月 1 日現在 (4,893)人			
	イ. 担当する圏域の75歳以上の独居世帯の数、高齢者世帯の75歳以上の高齢者数【時点・世帯数・人数を記入】	H 29 年 4 月 1 日現在 独居世帯数(1,469)世帯 75歳以上の高齢者世帯の高齢者数(3,385)人			

③担当する圏域における利用者のニーズの把握を行っているか。		4	4		
評価の根拠	ア. 実施しているニーズ把握の方法【自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> ・体操教室、介護予防教室、認知症予防教室でアンケートを実施する。 ・地域住民と取り組む介護予防に関する活動の中で、意見交換を行う。 ・高齢者支援連絡会定例会及び交流会に参加し、高齢者支援連絡員の活動報告等からニーズを把握する。 ・個別相談対応からニーズ分析を行う。 ・自治会、老人会などの集いに出席し聞き取りを行う。 ・民生委員児童委員連絡協議会に参加し、高齢者支援の実態を把握する。 ・医療機関の医療相談員と連携し、地域住民の医療ニーズの把握を行う。 ・ハイリスクアプローチにより訪問、電話連絡をし高齢者の生活ニーズの把握をする。 ・松戸プロジェクト内、プロボノ事業の活用をし、プロボノワーカーに地域住民のニーズ把握を依頼した。 			
	イ. ニーズを基に実行した取組の具体例【自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員児童委員連絡協議会に参加し、独居高齢者の救急搬送時の支援に関する課題があげられた。地域包括ケア推進会議のテーマとして取り上げ、消防署より「救急隊が傷病者搬送時に必要な情報10か条」を示していただき、ケアマネや地域関係機関等へ周知した。 ・個別相談から何例か把握したごみ出しが困難な高齢者に対して、地域支援を検討。地域個別ケア会議において検討後、ケアマネ・民生委員と地域に出向き、ごみ出しの実態について小金地域の調査を行った。 ・警察署から示された、地域の高齢者の詐欺被害増加を受け、体操教室での講座の実施及び、被害防止に関する普及啓発のチラシを居宅介護支援事業所にも協力していただき、利用者へ300部程度配布した。 ・認知症高齢者の通いの場として「認知症カフェ」の開催をした。 ・地域住民からの運動に対するニーズの把握から「運動測定会」を地域住民向けに行った。 			

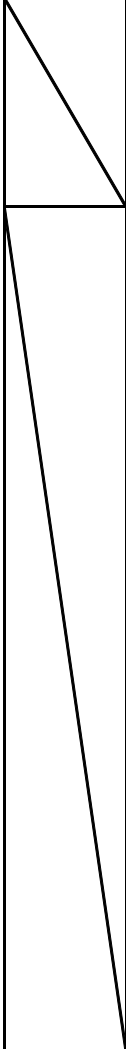
④個人情報保護の徹底を行っているか。		4	4	④ア 地域包括独自のマニュアルを作成し、各職員が持っている。相談室の壁にも掲示している。
評価の根拠	ア. 個人情報保護マニュアルを整備し、職員全員が所持している／いない	いる	/	
	イ. 個人情報保護責任者を設けている／いない	いる		
	ウ. 個人情報の管理のために行っている具体的な方法 安全な保管場所(鍵・パスワード付)や管理の方法など【自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報は鍵付きのキャビネットに保管し原則持ち出しは禁止する。 やむを得ず持ち出す場合は個人情報持ち出しノートに記入の上、複数名で確認する。 ・パソコンは全て、個人パスワードでログイン制限する。 ・月に1度個人ファイルの定期点検、週に1度個人情報持ち出しノートの定期点検を行う。 ・PCパスワードは年1回及び職員入職時に必ず全員変更する。 ・職員退職時に全職員のカナミックID、パスワードの変更をする。 		
	エ. 個人情報の取得・開示についてのチェック項目を設け、案件ごとに確認している／いない	いる		
	オ. その他【任意・自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護マニュアルを作成し、年2回以上全職員を対象に研修を行う。 ・研修終了後、職員全員が個人情報セルフチェック表の記入をし管理者へ提出、確認をし改善項目を明らかにしている。 		

⑤利用者が利用しやすい相談体制が組まれているか。		3	2.5																	
評価の根拠	ア. 夜間窓口(連絡先)の整備・周知の方策【自由記入】	時間外は留守番電話で母体法人の電話番号をアナウンスし、法人に電話があると、必要時、地域包括職員へ緊急携帯電話にて24時間連絡が付く体制をとる。																		
	イ. 対応分類(訪問、面接、電話)別の夜間対応の件数(29年度1年間)【月報の件数を記入】 ※17:00以降に対応した件数	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>32 件内(32 件)</td> <td>0 件)</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>9 件内(9 件)</td> <td>0 件)</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>191 件内(44 件)</td> <td>147 件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>232 件内(85 件)</td> <td>147 件)</td> </tr> </tbody> </table>		本人又は親族	その他	訪問	32 件内(32 件)	0 件)	面接	9 件内(9 件)	0 件)	電話	191 件内(44 件)	147 件)	合計	232 件内(85 件)	147 件)			
		本人又は親族	その他																	
	訪問	32 件内(32 件)	0 件)																	
	面接	9 件内(9 件)	0 件)																	
	電話	191 件内(44 件)	147 件)																	
	合計	232 件内(85 件)	147 件)																	
	ウ. 土曜・休日窓口(連絡先)の整備・周知の方策【自由記入】	・時間外は留守番電話で母体法人の電話番号をアナウンスし、法人に電話があると、必要時、包括職員へ緊急携帯電話にて24時間連絡が付く体制をとる。また、必要に応じて休日出勤を行う。 ・土曜日は、地域包括職員が輪番で出勤し直接電話・窓口対応をしている。																		
エ. 対応分類(訪問、面接、電話)別の土曜・休日対応の件数(29年度1年間)【月報の件数を記入】 ※8:30-17:00に対応した件数	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>15 件内(14 件)</td> <td>1 件)</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>11 件内(10 件)</td> <td>1 件)</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>53 件内(44 件)</td> <td>9 件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>79件内(68 件)</td> <td>11件)</td> </tr> </tbody> </table>		本人又は親族	その他	訪問	15 件内(14 件)	1 件)	面接	11 件内(10 件)	1 件)	電話	53 件内(44 件)	9 件)	合計	79件内(68 件)	11件)				
	本人又は親族	その他																		
訪問	15 件内(14 件)	1 件)																		
面接	11 件内(10 件)	1 件)																		
電話	53 件内(44 件)	9 件)																		
合計	79件内(68 件)	11件)																		
※17:00以降に対応した件数	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>0 件内(0 件)</td> <td>0 件)</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>0 件内(0 件)</td> <td>0 件)</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>0 件内(0 件)</td> <td>0 件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>0 件内(0 件)</td> <td>0 件)</td> </tr> </tbody> </table>		本人又は親族	その他	訪問	0 件内(0 件)	0 件)	面接	0 件内(0 件)	0 件)	電話	0 件内(0 件)	0 件)	合計	0 件内(0 件)	0 件)				
	本人又は親族	その他																		
訪問	0 件内(0 件)	0 件)																		
面接	0 件内(0 件)	0 件)																		
電話	0 件内(0 件)	0 件)																		
合計	0 件内(0 件)	0 件)																		
オ. 職員が、緊急時に連携できる医療機関・介護事業者等の各種施設の連絡先を携帯している/いない	いる																			
カ. 地域包括支援センターのPRのために講じている具体的方策【自由記入】	・薬局や医療機関に独自に作成したチラシを設置してもらう。 ・地域の老人会やサロン等に出向き、周知活動を行う。 ・民生委員等地域関係者に包括チラシやパンフレットを渡し、住民に配布してもらう。 ・地区社会福祉協議会や高齢者支援連絡会の広報誌において、地域包括のPRにつながる記事を掲載していただく。 ・小金地区事業者交流会を開催し地域の参加事業者に地域包括のチラシを配布し、全職員が挨拶をしている。																			
キ. その他【任意・自由記入】	・民生委員や高齢者支援連絡員、子ども食堂や障害者支援機関等との連携により、地域包括を知らない利用者に対する相談支援も行き届きやすいネットワークを構築している。 ・小金地域包括で独自のチラシ(職員名、地図、電話番号等記載)を作成配布している。																			

⑥利用者の満足度向上のための適切な苦情対応体制を整備しているか。		4	4		
評価の根拠	ア. 地域包括支援センターで受け付けた苦情受付件数と、そのうちセンター自体に対する苦情件数(29年度1年間)【件数を記入】	苦情受付件数 11 件 (内センター自体の苦情 3 件)			
	イ. 「29年度1年間に受けた苦情のうち最も困難な苦情」の解決にかかった時間及び解決のために主に連携した機関【時間及び機関を記入】	解決時間: 2時間 連携機関: 高齢者支援課、弁護士、ケアマネ、民生委員			
	ウ. 苦情対応窓口に関する情報(連絡先、受付時間等)を公開している/いない	いる			
	エ. ウが「いる」場合、公開している場所・方法【自由記入】	・重要事項説明書に苦情対応窓口に関する情報を記載する。 ・事業所内に掲示をする。			
	オ. 重大な苦情の内容及び対応方法を決定し、関係機関と共有している/いない	いる			
	カ. その他【任意・自由記入】	・苦情対応マニュアルを作成し、年1回以上全職員を対象に苦情対応研修を行う。 ・苦情受付票を作成し、苦情受付台帳の管理をしている。 ・苦情を受け付けた際は管理者に報告し、朝礼にて全職員へ共有している。 ・苦情受付時は速やかに高齢者支援課へ報告している。			

2. 人員体制

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項
①多様なニーズに対応できる知識・経験のある職員の確保・育成を行っているか。		4	3		①オ 伝達内容が30分未満のものについては、朝礼で伝達しているが、伝達内容が30分を超えるものについては、月1回伝達研修の時間を設けており、その時に行っている。
評価の根拠	ア. 3職種(保健師等/社会福祉士/主任介護支援専門員)の欠員期間(日数)【日数を記入】 ※年度末に報告する欠員期間(日数)を記入 ※欠員がなければ0を記入	保健師等 : (37)日 社会福祉士 : (0)日 主任介護支援専門員: (0)日			
	イ. 「専門職総数」のうち「今年度新たに配属された専門職」の比率【比率(新たに配属された専門職数/専門職総数)を記入】	H29年度内に 新たに配属された専門職数 / 専門職の総数 (2) / (5) = (40 %)			
	ウ. 専門職の当該地域包括支援センターでの平均勤続月数【月数を記入】 ※平成30年3月末現在の平均勤続月数を記入	平均 34 月			
	エ. 職員に対する職場内研修の開催回数【回数を記入】	23 回			

<p>オ. その他【任意・自由記入】 (研修内容を記載する場合は、日時・内容・時間数を記入)</p>	<p>5月1日:個人情報保護研修(1.5時間) 5月22日:体操教室危機管理について(2時間)6月19日:苦情対応について(30分) 6月13日:松戸市居宅介護支援事業者等研修会、主任ケアマネ部会(1.5時間) 7月6日:医療事故について(1時間) 9月1日:防災研修(1時間) 9月8日:プランチェックについて(30分)、あんしん電話について(1時間) 12月7:医療事故について(1時間) 【伝達研修内容】 4月12日:千葉県認知症サポート医フォローアップ研修会、専門職向け成年後見人研修会、在宅医療・介護連携相談窓口プロジェクト、ふくろうプロジェクト(1時間) 6月30日:地域ケア会議、総合事業の更新手続き(30分) 7月24日:初任者研修、事業対象者の手続き(1.5時間) 8月25日:主任ケアマネ部会(30分) 9月1日:地域包括支援センター職員研修、オレンジ協力員説明会(30分) 10月12日:認知症地域支援推進員研修、小金ウォークラリーについて(1時間) 10月20日:総合事業について、市民後見人制度に関する研修会(1時間) 11月14日:高齢者虐待防止ネットワーク専門職向け研修会、平成29年度専門職向け認知症関連研修会(1時間) 12月15日:看護師部会、地域包括支援センター職員研修(現任者)、生活支援コーディネーター養成研修(1.5時間) 1月11日:平成29年度 地域包括支援センター合同研修、主任ケアマネ部会、在宅医療・介護連携コーディネーター養成研修(1時間) 2月9日:平成29年度第2回居宅介護支援事業者等研修会、さざんか運営推進会議、地域ケア会議の開催に向けての中央勉強会(2時間) 2月26日:キャラバンメイトスキルアップ研修、社会福祉士部会(1時間) 3月12日:生活支援コーディネーター研修、松戸市立総合医療センターでの在宅医療関連多職種連携会議、千葉県高齢者虐待防止対策研修(1.5時間) 3月26日:松戸市版アセスメントシート改訂についての説明会(30分)</p>			
---	--	--	--	--

②専門職間の連携を効果的に行っているか。		4	4		
評価の根拠	<p>ア. すべての専門職の「連携活動評価尺度」の得点 【すべての専門職の得点を記入】 ※全国平均は24.5点 ※平成30年3月末現在在籍している全ての専門職について記入</p>	<p>① 41 ② 39 ③ 40 ④ 37 ⑤ 29 ⑥ ⑦</p> <p>平均 37.2 点</p>			

3. 総合相談支援業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項	
①相談内容の把握・分析を行っているか。	4	3.5			
評価の根拠	ア. 分類別の相談件数 (29年度1年間) a.本人又は親族への支援【月報の件数を記入】 a.本人又は親族への支援 介護に関する相談 1,803 件 健康・医療に関する相談 638 件 経済的相談 119 件 介護予防に関する相談 234 件 家族調整に関する相談 48 件 権利擁護に関する相談 250 件 諸制度に関する相談 37 件 地域の社会資源に関する相談 53 件 その他 791 件 総計 3,973 件 b.本人又は親族以外の機関への支援【月報の件数を記入】 b.本人又は親族以外の機関への支援 介護に関する相談 1,293 件 健康・医療に関する相談 512 件 経済的相談 132 件 介護予防に関する相談 65 件 家族調整に関する相談 83 件 権利擁護に関する相談 430 件 諸制度に関する相談 61 件 地域の社会資源に関する相談 34 件 その他 1,018 件 総計 3,628 件				
	イ. 他のセンターと比較した分類別の相談件数の特性と、当該センターにおける相談内容の主な特徴の検討結果【自由記入】※直近の介護保険運営協議会資料を参照して比較検討	介護に関する相談が最も多く、中でも介護保険に関する内容が多い。介護の相談窓口として認知が進んでいることが背景にあると思われる。次いで健康・医療に関する相談も多く、医療機関等との連携が増えている。また他地域包括と比較すると成年後見制度や虐待など権利擁護に関する相談が多い。			
	ウ. 全ての相談事例について相談受付表を作成し、緊急性を判断している／いない	いる			
	エ. 主担当職員が不在の場合でも対応できるように職員間で共有できる記録の管理を行っている／いない	いる			
	オ. その他【任意・自由記入】	・前日の相談事例について、翌日の朝礼時に共有する。支援経過が確認しやすいよう、パソコンのネットワーク化や個別ファイルを作成し管理する。全ての相談事例について、毎月3職種で経過及び支援方針を共有する。 ・ケース台帳、個別ファイル支援経過で相談内容を記録管理している。			

②相談事例の解決のために、進捗管理や他分野との連携等、必要な対応を行っているか。	4	3.6		
ア. 解決困難な相談事例を分類し、進捗管理を定期的に行っている／いない	いる			
イ. 専門的・継続的な関与又は緊急の対応が必要と判断した場合であって、市へ報告した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	<p>本人と子①の2人暮らし。マンションの管理費が滞納となり業者が訪問。その際に、本人が子①から年金を搾取されており暴言暴力を日常的に受けていることを話し、業者が高齢者支援連絡員に相談。高齢者支援相談員から民生委員、地域包括へ相談が繋がった。包括職員が自宅に訪問すると、本人が保護を求めたため、包括職員が受診同行及び市へ連絡し、高齢者虐待として施設の措置利用につなげた。子①には本人の居場所を伏せ、警察同行にて自宅訪問生活保護の申請を促したが、なかなか申請にはつながらず、本人にお金を無心する為、地域包括に本人の居場所を聞きに来る事があった。センターとしては、職員の安全管理のため防犯カメラを設置。本人には、高齢者支援課と連携し子②と連絡を取り、司法書士の支援につなぎ成年後見制度の親族申立てを支援した。</p>			
ウ. 障害者支援機関と連携して対応した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	<p>子が飲酒しては本人に危害を加える事例。毎月、関係機関と連絡を取り合った内容について個別事例検討会にて報告し、地域包括内では台帳管理とケース共有会議にて進捗状況を確認する。ほっとねっとなど障害者支援機関と連携し子の治療の為に入院と、退院後の保護施設への入所、また民間支援団体につなぎ子の生活保護受給と自立の為に転居を支援した。</p>			
エ. 介護家族からの相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	<p>本人を同居家族が介護している世帯。本人の介護への抵抗の強さや、以前からの家族関係の悪さ、家族の病気への理解不足などから本人と家族が衝突を繰り返していた。かかりつけ医に家族と相談に行き、認知症疾患医療センターへ繋ぎ、介護保険の申請、ケアマネ紹介、サービスの導入をして家族の介護負担を軽減する。またケアマネと連携し認知症ケアバスを用いた認知症理解のための説明を継続的に家族に行う。ケアマネとの情報共有や同行訪問を計画的に行い、進捗管理を行う。本人も生活リズムができ、介護サービスを楽しみに落ち着いた生活を送っており家族との衝突はみられなくなった。</p>			

<p>オ. 介護と仕事の両立支援など、子育て部門と連携して対応した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】</p>	<p>民生委員より、治療の為に通院や体調不良で育児(保育園への送迎)が困難になっている親の件で相談を受ける。包括職員から本人に電話し、聞き取りを行う。利用料を払って受けられるサービスだと、治療費も高額な為経済面に不安があるが、近隣の支援は相手の都合によって受けられたり受けられなかったりする不安定なものなので、何かいい資源はないかとのこと。高齢者支援課、障害福祉課、保健福祉センターに相談。保健福祉センターの保健師が、相談に乗るので本人から電話が欲しいと言い、その旨本人に連絡する。</p>			
<p>カ. その他【任意・自由記入】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括内のケース共有を毎月実施し、高齢者支援課と電話、会議などで連携を密に行う。 ・問題解決の為に、弁護士や警察、基幹型相談支援センターCoCoやほっとねっと、障害福祉課、小金保健福祉センター、保健所など様々な専門機関の専門職に相談し、必要に応じて連携し対応する。 ・民生委員や高齢者支援連絡員など地域のネットワークを活かし個別支援を行なう。 ・前日の相談事例について、翌日の朝礼時に共有する。支援経過が確認しやすいよう、パソコンのネットワーク化や個別ファイルを作成し管理する。全ての相談事例について、毎月3職種で経過及び支援方針を共有する。 			

③地域における関係機関のネットワークの構築を行っているか。	4	3.7		
評価の根拠	ア. 地域(圏域内・外)のネットワークの構成員や組織、関係性等の情報をマップやリストで管理している/いない	いる		
	イ. 職員が参加した関係機関・組織等が主催する全ての会議・行事等の総件数・日程・テーマ 【総件数・日程・テーマを記入】	①関係機関・地域の町会等による住民等向けのイベント(6件) 4月15日:新松戸中央総合病院認知症カフェ「花モモカフェ」 4月15日:東平賀老人会ちとせ会「介護予防」 4月28日:富多葉自治会老人会介護保険説明会 5月30日:プロボノチャレンジMATSUDO参加説明会 6月20日:大金平すみれ会「介護保険制度」 12月6日:サンビューハイツ「肺炎予防」		
	①関係機関・地域の町会等による住民等向けイベント ②関係機関等の関係者・専門職向け会議・イベント	②関係機関等の関係者・専門職向け会議・イベント(36件) 4月6日、5月11日、6月1日、7月6日、9月7日、平成30年2月22日、3月15日 まつどプロジェクト戦略会議 4月25日:リハビリ専門職のアセスメント支援事業説明会 4月28日:まつどプロジェクトワークショップ① 5月12日:ニチイ職員研修 5月12日:千葉県認定調査員新規研修 5月13日:小金南部地区民生委員児童委員協議会定例会 5月19日:千葉県認定調査員新規研修 5月24日:松戸市居宅介護支援事業者等説明会 5月25日:まつどプロジェクトワークショップ② 5月30日:まつどプロジェクトプロボノ説明会 6月14日:まつどプロジェクトワークショップ③ 7月10日:小金地区社会福祉協議会地域懇談会 7月13日:認知症コーディネーターフォローアップ研修 7月15日:まつどプロジェクトプロボノチャレンジオリエンテーション 7月18日、25日:主任介護支援専門員更新研修 8月7日:主任介護支援専門員更新研修 8月8日:千葉大学予防医学センターとの共同研究 8月29日:オレンジ協力員説明会 9月3日、4日:主任介護支援専門員更新研修 9月14日、15日:認知症地域支援推進員 9月29日:地域共生相談機関連絡会 10月11日:介護予防ケアマネジメント研修会 10月23日:ひまわりネット 11月2日:小金地区社会福祉協議会セミナー会議 11月16日:福祉懇談会 11月22日:福祉相談機関連絡会 平成30年1月27日:小金地区社会福祉協議会セミナー		

<p>③地域密着型サービス事業者の運営推進会議等 に大別して記入</p> <p>※地域ケア会議、センター長会議、各専門職部会などは含まない。 ※介護予防普及啓発活動、認知症サポーター養成講座など他の項目で記入している内容は重複して記入しない。</p>	<p>③地域密着型サービス事業者の運営推進会議等（25件） 【さざんか】5月20日、7月15日、9月16日、平成30年1月20日、3月17日 【しいえす幸田】 4月18日、6月20日、8月15日、10月17日、平成30年2月20日 【めいと中金杉】 5月17日、7月26日、9月20日、11月15日、H30年3月29日 【芙蓉園】5月26日、7月2日、9月29日、平成30年3月30日 【デイサービスここね】平成30年2月5日 【リハふらざきたこがね】6月16日 【デイサービスふおるて】7月14日 【健康ふらす小金城趾】平成30年3月30日 【まごころデイサービス大金平】12月26日 【リハビリデイホームいきいき舎北小金】平成30年2月13日</p>			
<p>ウ. 個人の有するネットワークを専門職で共有している／いない</p>	<p>いる</p>			

④地域の社会資源について把握および開発を行っているか。		4	3.8		
評価の根拠	ア. 高齢者支援等を行う介護保険外サービス(※)を行う地域(圏域内・外)の社会資源のうち、センターと連携や交流の実績がある資源の数(〇ヶ所)【ヶ所数を記入】 ※配食、見守り、移送、サロン、地域の予防活動等	圏域内 28 ヶ所 圏域外 16 ヶ所			
	イ. <マップについて> 地域の社会資源に関するマップについて ①マップを作成し、社会資源の開催内容・場所・回数・連絡先等の情報が掲載されている ②マップを作成しているが、社会資源の開催内容・場所・回数・連絡先等の情報が掲載されていない ③マップは作成していない 【①・②・③を選択】 ※マップを一部提出	①マップを作成し、社会資源の開催内容・場所・回数・連絡先等の情報が掲載されている			
	ウ. <マップについて> 「イ」の地域の社会資源に関するマップを平成29年度内に更新をしている/いない	いる			
	エ. <マップについて> 作成した社会資源に関するマップの活用及び周知方法【自由記入】	社会資源マップを基に地域住民のボランティアと共に松戸市内全域の65歳以上の方を対象とした「第2回小金ウォークラリー(介護保険施設や名所を巡る)」を開催した。			

評価の根拠	<p>オ. 社会資源(※)の立ち上げ運営又はそれらの支援を行った数と、そのうち新規立ち上げ支援数(29年度1年間)【ヶ所数を記入】 (※)住民主体の予防活動、通いの場、サロン、認知症カフェ等</p>	<p>総数 4 ヶ所 (内新規立ち上げ支援数 2 ヶ所)</p>			
	<p>カ. 「オ」の各社会資源の種類・特徴・開催回数(週・月〇回)など詳細情報【自由記入】</p>	<p>が行えるオレンジ協力員の育成及び活動支援を行う。(活動内容: 認知症を理解する為の講座6回、グループワーク7回、地域個別ケア会議への参加3回、まつど祭のスタッフ1回、認知症高齢者声かけ訓練のスタッフ1回、認知症予防教室のスタッフ3回、認知症カフェの見学3回、認知症サポーター養成講座のスタッフ2回、お試し認知症カフェの開催1回) ・小金げんき友の会の活動支援。(活動内容: 小金ウォークラリー企画運営 準備 回・開催1回、運動測定会企画運営 準備3回・開催1回、認知症高齢者声かけ訓練運営1回) ＜新規＞裁縫リメイク教室。アパレル経験40年の小金げんき友の会員の方が自宅で教室を始められた。木・土10時～12時参加費500円(材料費別途かかる場合もあり) ＜新規＞認知症カフェ。社会福祉協議会と協働して認知症高齢者の方の通いの場を作る。認知症について事前に十分に勉強をしたオレンジ協力員と社協ボランティアが対応する。(1回: 平成30年1月17日)</p>			
	<p>キ. その他【任意・自由記入】</p>	<p>小金げんき友の会をまつどプロジェクトのプロボノワーカーの支援につなげ、参加者のニーズ調査を行う。今後の活動の自主化や内容の充実について様々な提案を受ける。</p>			

4. 権利擁護業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項	
①成年後見制度や日常生活自立支援事業(社協)の活用を促進しているか。	4	3.7	①ア 成年後見制度進捗台帳を使用して進捗管理している。担当者、申立日、面接日、診断書をとった日、類型などを一覧にし、チェック欄を設けている。		
評価の根拠	ア. 成年後見制度や日常生活自立支援事業を利用する必要がある者の把握方法【自由記入】	総合相談や、ケアマネ等からの相談や医療機関から対象者を把握し、アセスメントを行い、必要性を三職種にて検討をするケース会議を行う。対象者は「成年後見制度進捗台帳」にて管理している。			
	イ. ①成年後見制度活用につなげたケース数(29年度1年間)【月報の件数を記入】、②他のセンターとの比較等を通じた当該センターの特性の分析と今後の対応策の検討結果【自由記入】 ※介護保険運営協議会資料を参照して比較検討	① 5件 ②平成29年度は多圏域と比較すると当地域包括が最も多く制度へつなげている。内訳別では市長申立てが4件、本人・親族申し立てが2件であり、身寄りがなく親族などの支援を受けられずに認知症が進行してしまったケースが多い。認知症が軽度のうちから積極的に医療と連携したり、見守りのネットワークを充実させてすぐに異変に気がつけるような体制ができるように、医療・福祉・地域等との連携を強化していきたい。			
	ウ. ①日常生活自立支援事業につなげたケース数(29年度1年間)【月報の件数を記入】、②他のセンターとの比較等を通じた当該センターの特性の分析と今後の対応策の検討結果【自由記入】 ※介護保険運営協議会資料等を参照して比較検討	① 1件 ②他地域包括と比較すると平均的な状況である。金銭管理が必要なケースを把握するタイミングがすでに成年後見制度の適応段階に移行している場合が多く、当制度につなげる機会が少ない。今後は早い段階から制度につなげることができるよう高齢者支援連絡会や民生委員など高齢者支援の関係者はもちろん地域住民に対しても制度の周知徹底ができるようにしていきたい。			
	エ. その他【任意・自由記入】	成年後見制度の利用について、弁護士・司法書士・社会福祉士等に申立てに関する相談を行った。また、申立ての際は、必要に応じ、市役所高齢者支援課、生活支援課と連携した。本人に同行し家庭裁判所に相談に行く支援を行った。			

②関係機関と連携しつつ、高齢者虐待事例に対して適切かつ迅速に対応しているか。	4	3.7			
評価の根拠	ア. センター自身が警察や法律家と連携して対応した高齢者虐待事案の件数(29年度1年間)【件数を記入】	8 件			
	イ. 職員が、虐待事例に関する緊急時に連携できる介護施設・医療機関等の各種施設の連絡先を携帯している／いない	いる			
	ウ. 通報を受け48時間(24時間)以内に安全確認や必要な対応を行った事例の概要と対応内容(1事例)	市より地域包括へ通報。子が本人の通帳印鑑を持ち失踪してしまう。即日、ケアマネと自宅に同行訪問し、実態把握を行い本人の銀行口座の凍結、子の捜索願いの届出を支援する。市・事業所・ケアマネ・地域包括で会議を開催し支援方針を決定する。公共料金等の支払い、介護サービスの見直し、法テラスへ相談し弁護士への法律相談、日常生活自立支援事業の相談などの対応を行う。子が帰ってきてからは子と生活保護の相談や法テラスへつなぎ、就労支援も行った。			
	エ. その他【任意・自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> ・相談受理時は帳票を作成し、内部共有を速やかに行っている。包括での対応方針をまとめ、市への報告や各関係機関との連携を図ることによって、適切な対応に努めている。 ・月に一度対応中のすべての事例について共有会議を地域包括内で開催し対応方針などについて協議している。 ・帳票をもとに個別事例検討会にて他地域包括や市及び虐待防止ネットワーク委員の意見を聞く。 			

③消費者被害の防止や権利擁護に関する啓発に関する取組を行っているか。		4	3.7		
評価の根拠	ア. 松戸市消費生活センター(又は松戸市消費生活課)との定期的な情報交換の方策及び頻度【自由記入】	年に2回、松戸市消費生活センターに講師を依頼し、体操教室において消費者被害の予防講座を行なっている。地域の実情や被害状況などの情報交換を行う。			
	イ. 消費者被害防止のための民生委員・介護支援専門員・訪問介護員等への情報提供等の実施方策及び頻度【自由記入】	消費者被害に関する事例が発生した際は、電話連絡や会議等を通じて民生委員やケアマネ、ヘルパー等と情報交換し、注意を促している。 (小金ケアマネ連絡会、高齢者支援連絡会、小金地域個別ケア会議、介護予防教室など)			
	ウ. センターが開催した権利擁護に関する全ての住民向け講演会の開催回数・日程・内容・主な参加者層・参加者数【開催回数・日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】 ※他センターとの合同開催も記載し、その旨を明記	開催回数合計 5回 9月27日:小金原市民センター 弁護士による市民向け高齢者虐待防止講演会 地域住民対象49名参加 9月11日:小金北市民センター 松戸東警察署職員による詐欺被害防止の講座 65歳以上の小金地区高齢者20名参加 9月26日:小金市民センター 松戸東警察署職員による詐欺被害防止の講座 65歳以上の小金地区高齢者43名参加 1月9日:小金北市民センター 消費者センター相談員による消費者被害防止の講座 65歳以上の小金地区高齢者32名参加。 平成30年2月27日:小金市民センター 消費者センター相談員による消費者被害防止の講座 65歳以上の小金地区高齢者25名参加。			
	エ. その他【任意・自由記入】	相談事例により把握した詐欺情報を把握後即日、電話にて民生委員や近隣住民に周知を行った。また各会議等で地域住民やケアマネ等に周知した。 年に1回、松戸東警察署生活安全課の警察官に講師を依頼し、体操教室において詐欺防止の講座を行なっている。			

5. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項			
①地域の介護支援専門員に対して、日常的指導・相談を効果的に行っているか。	4	3.8					
評価の根拠	ア. 29年度1年間における地域の介護支援専門員からの相談件数【月報の件数を記入】	1,082 件	/				
	イ. 「29年度1年間における地域の介護支援専門員から受けた相談のうち最も困難な相談事例(1事例)」の概要及び対応内容【自由記入】	本人と配偶者の2人世帯。配偶者の介護負担が大きく、介護が困難になっていた事例。配偶者及び他の家族が本人の病気に対する理解が不十分だった。民生委員、主治医との連絡調整や関係者を集めてのケース会議の開催。配偶者の認知症サポーター養成講座への受講や、サービス担当者会議へ出席し家族への助言指導を行った。また、今後再び転倒があった際には施設入所を検討するなどの在宅介護の限界点の判断基準を具体的に示す等ケアマネジメントに対しても助言を行い、ケアマネの新たな気づきにつながった。			/		
	ウ. 29年度1年間における「地域の介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会」の開催回数【回数を記入】	5 回				/	
	エ. 29年度1年間における「地域の介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会」の日程・内容・講師【日程・内容・講師を記入】	6月15日: 小金地区事業者交流会 ・松戸市の認知症支援について: 高齢者支援課 守田加寿子氏 ・オレンジ協力員について: 松戸市社会福祉協議会 佐藤英美氏 6月30日: 小金ケアマネ連絡会 ・地域ケア会議について: 小金地域包括支援センター 前田 ・課題整理統括票の活用と事例検討 9月26日、11月29日: 小金ケアマネ連絡会 ・課題整理統括票の活用と事例検討 3月6日: 小金ケアマネ連絡会 ・医療制度について: 山本病院 地域連携室 中村満男氏					/
	オ. その他【任意・自由記入】	小金ケアマネ連絡会で、地域ケア会議の報告を行い地域課題の共有を図った。また、ケアマネに地域個別ケア会議への事例提供及び傍聴についても呼びかけた。					

②地域の介護支援専門員に対して、支援困難事例等への個別指導・助言を効果的に行っているか。		4	3.3		
評価の根拠	ア. 同行訪問による個別指導・助言の件数(29年度1年間) 【月報の件数を記入】 ※サービス担当者会議への出席は同行訪問に含めないものとする。	155 件			
	イ. アのうち、最も支援困難な事例(1事例)の概要及び個別指導・助言の内容【自由記入】	生活保護を受け独居の本人宅に、離婚し日雇いの仕事で収入が不安定な子が居候していたケース。本人は物忘れが進んでいる状態。子が本人のお金を管理していたが十分な食事を与えず、本人が近隣住民にお金を借りたり食事を提供してもらっていた。近隣住民が疎遠となって行き、民生委員に支援を依頼。民生委員から地域包括に相談がある。地域包括でケアマネに本人のケアマネジメントを依頼し、生活支援課に子の生活支援について相談し生活保護につなげる。子がケアマネジメントの相談にまともに応じない状況があったのに対して、ケアマネに対して子への対応方法や民生委員、生活支援課CWとの連携の仕方について助言、課題整理統括票を用いて、課題や支援の優先順位が明確にできるよう支援した。定期受診につなげ服薬管理状況について把握し、家族の支援が不足している状況を確認し、子の理解を得て施設入所へとつながった。			
	ウ. サービス担当者会議への出席による指導・助言の件数(29年度1年間)【月報の件数を記入】	46 件			
	エ. ウのうち、最も支援困難な事例(1事例)の概要及び指導・助言の内容【自由記入】	デイサービス利用時の様子などをインターネット上に勝手にアップして事業者や他の利用者を誹謗中傷してしまう事例。関係者への聞き取りやm-Cap(法律相談)への相談を行い、関係者と対応を協議する。サービス担当者会議へ出席し関係者、本人へ指導、助言を行う。			
	オ. その他【任意・自由記入】	・ケアマネと一緒に個別ケースの再アセスメントを行い、サービス量の見直し等の助言をした。 ・ケアマネが担当する高齢者の様々な課題に対して、介護保険サービス事業所以外の支援機関との連携を支援し、多問題に対する助言を行った。			

6. 地域ケア会議関係業務

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項
①地域ケア会議の開催を通じて、地域の課題を把握しているか。		4	3.5		
評価の根拠	ア. 29年度1年間における、地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議の開催回数【件数を記入】	①地域包括ケア推進会議 2回 ②地域個別ケア会議 6回			
	イ. 地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議の開催に当たって、関係機関等の意見を聴取した上で、議題とする事例やテーマを選定している／いない	いる			
	ウ. アが「いる」の場合、その具体的方策【自由記入】	・高齢者支援連絡会、民生委員児童委員の、定例会や勉強会に参加し、地域課題について把握している。 ・ケアマネからの個別ケースの相談の中で地域課題についても確認・把握している。 ・ボランティアや地域住民の集まりの場から直接、地域課題を聞き取りし把握している。			
	エ. 議題とする事例やテーマにあわせて、地域ケア会議の参加者を決定している／いない	いる			
	オ. ウが「いる」の場合に、①当該地域個別ケア会議の事例と②参加した医療・介護関係者以外の関係者の職種【事例・職種を記入】	認知症支援に関する事例にオレンジ協力員、町会関係者、民生委員、家族が参加している。			
	カ. 地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議の議論内容(議論のまとめ又は議事録)を参加者間で共有している／いない	いる			
	キ. その他【任意・自由記入】	地域個別ケア会議の参加者に議事録を郵送している。また、次の会議でモニタリング結果の報告も行っている。			

②3層構造の地域ケア会議の連携を通じて、地域の課題解決を図っているか。		4	3.5		
評価の根拠	ア. 地域個別ケア会議の個別事例から課題を抽出し、地域包括ケア推進会議での議題にあげている事例(2事例)【自由記入】	銀行で高額な現金を引き出そうとした為、銀行と警察の協定により警察が本人と面談した際、認知症を疑った。地域包括が訪問にて面接したところ、軽度の認知症と思われた。認知症予防のため介護予防体操教室を案内するが一人では参加が難しく民生委員に付き添いを依頼した。そうした役割をオレンジ協力員にも担ってもらえるような環境整備について議題を提示した。			
		本人と複数障害を抱える子の同居世帯。子は症状悪化により、大声を出して近隣住民に不安を与えたり、本人は病気によりごみ出しのルールが守れない等、複数の課題があった。子と親双方に支援が必要であり、それぞれの支援者間での連携を円滑にするため地域住民も交えて定期的に地域個別ケア会議を開催し情報の共有とネットワークの構築をした。			
	イ. 地域包括ケア推進会議で抽出された課題をまとめて、市の定める期限・様式に従って、市に報告している／いない	いる			
	ウ. 市の地域ケア会議での決定事項を、地域包括ケア推進会議で報告している／いない	いる			
	エ. その他【任意・自由記入】	・個別課題で認知症の方の個別支援や通いの場の必要性について議論し、地域包括ケア推進会議においてオレンジ協力員の活動を高齢者支援連絡員や民生委員と連携し支援していくことについて話し合った。 ・(ア下段の事例) 地域ケア会議を通じて子の課題が地域から障害者分野の支援者に伝わった。また、障害者分野など他分野や地域住民との連携ネットワークができ、地域で子の障害についての理解がされ、子が地域で生活続けることができるようになったなどの個別課題の解決につながった。			

7. 在宅医療・介護連携推進業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項
①医療機関との緊密な連携を行っているか。	4	3.7		
評価の根拠	ア. 在宅医療を行う医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要【自由記入】	70歳代。要介護4。本人と配偶者と子の3人暮らし。訪問診療を2回/月続けたが、ADL低下し失禁や栄養失調となり在宅医療機関と連携し、状況報告など含め入院調整した。退院調整を入院先病院と在宅医療機関と連携し行った。在宅医療機関、ケアマネと介護サービスについても調整しショートステイの利用やその後の療養病床への入所を支援した。	/	
		夫婦ともに要介護認定を受けている高齢者2人暮らしの世帯。被害妄想や介護拒否が強く介入が難しかったがケアマネや医療機関と対応についてケース会議を開催した。訪問診療費の支払えない原因について明らかにし解決につながった。また訪問診療の拒否についてもケアマネと地域包括で受診に同行するなどし継続的な受診につなげた。		
	イ. 外来診療を行う医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要【自由記入】	障害によりコミュニケーションが難しい本人の支援。制度に納得せず介護サービスに対して無理な要求をする本人の支援についてケアマネが地域包括に協力を求めた。地域包括から医療機関に電話相談や受診同行を行い、疾患に対する支援方法の専門的なアドバイスを受け、その後外来受診にあわせ状況報告を行った。サービス提供が困難で支援者側が継続困難と感じていたが、継続的に支援が受けられる体制が整った。		
		高齢者の独居世帯。食事や買い物は出来たが洗濯や入浴などのセルフケアが出来なかった。介入には本人の強い拒否があった。医療機関に本人が来院したら地域包括へ連絡をもらえるように依頼し受診同席することができた。自ら訴えができない本人に代わって医師に状況報告を行い介護保険申請につなげた。成年後見制度へ繋げる為に医療機関相談員と司法書士、本人、地域包括でケース会議を行った。		

<p>ウ. 入院医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要 【自由記入】</p>	<p>自傷行為を繰り返す第2号被保険者の独居世帯。自傷行為により救急で入院する。入院医療機関へ情報提供や複数回の退院検討カンファに参加し、在宅復帰の可否について医療スタッフと検討した。</p>			
<p>エ. その他 【任意・自由記入】</p>	<p>本人と障害を持つ子の世帯。本人の病気が進んだために受診支援をした結果、手術が必要な病気が判明し入院手術となった。入院医療機関に状況確認を行い、地域包括から身内と連絡を取り合って成年後見制度の申し立てや施設入所について検討した。本人の状態の変化に応じて開催されるカンファレンスに参加し、支援方針の共有を図り、円滑に施設入所の運びとなった。</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> ・母体が地域唯一の病院であり地域医療連携に強みを持つ。 ・個別ケースを通じて相談員、病棟看護師、サポート医と連携を図る。 ・地域包括が主催する事業者交流会に医療関係者の出席を依頼しネットワークの構築を積極的に図る。 ・医療関係者の研修会や会議に積極的に参加し顔の見える関係作りをする。 			

<p>②医療関係者とのネットワークを活用して、地域における医療的な課題の解決を図っているか。</p>	<p>4</p>	<p>3.6</p>			
<p>評価の根拠</p>	<p>ア. 地域サポート医(在宅医療・介護相談窓口)へ相談を行った件数(29年度1年間)【①相談支援件数・②アウトリーチ件数・③総件数を記入】 ※相談支援件数・アウトリーチ件数は別掲 ※地域サポート医事務局を介した件数を再掲</p>	<p>①相談支援件数 16 件(内、サポート医事業 1 件) ②アウトリーチ件数 0 件(内、サポート医事業 0 件) ③総件数(①+②) 16 件(内、サポート医事業 1 件)</p>			
	<p>イ. 地域サポート医との連携により、地域における医療的な課題に対応した事例(2事例)の概要【自由記入】</p>	<p>支援のための社会資源が少ないという地域の医療的な課題がある本人についてケアマネの後方支援をした事例。途切れていた受診を再開させるためにサポート医に対応を確認しながらケアマネ、地域包括が受診同行し、障害年金受給のための書類作成をサポート医に依頼した。また、サポート医からの医療情報を基に就労支援のためのケース会議を開催した。</p>			
	<p>ウ. 医療関係者とのネットワークを構築するためにしている具体的な方策【自由記入】</p>	<p>80歳代夫婦の高齢者世帯。サポート医より相談。被害妄想がひどく近隣トラブルがあり、在宅での介護が困難だったケース。電話でサポート医と本人の状況などを十分に共有した後、受診同行を行い介護保険の申請支援とケアマネの紹介、介護サービスの具体的内容の決定を支援した。その後も近隣トラブルはあったが、対応方法についてサポート医と相談しながら対応した。継続受診につながり、介護サービスの導入が進み、本人が落ち着いて過ごせるようになった。</p> <p>・松戸市介護支援専門員協議会が開催する医師・医療相談員との研修や在宅医療関連他職種連携会議など医療関係者が参加する研修会等に積極的に参加する。 ・地域ケア会議やケース会議へ医療関係者に参加を依頼する。 ・在宅医療、介護連携相談窓口で相談し、地域サポート医と連携する。 ・積極的に受診同行をする。 ・医療相談員との電話、文章でのやり取りを積極的に行っている。</p>			

<p>エ. 医療関係者と合同で参加した全ての事例検討・研修会・勉強会の日程・テーマ【参加回数合計・日程・テーマを記入】※担当者会議は含まない</p>	<p>参加回数合計 9 回 6月29日:新東京病院での在宅医療関連多職種連携会議「急性期病院における退院調整～現状と課題～」 「脳卒中後の在宅介護量軽減のためのITB療法(髄腔内バクロフェン療法)」 7月11日:東葛北部地域リハビリテーション広域支援センター認知症患者医療センター合同連絡協議会「地域包括ケアにおけるリハビリ職種の関わりについて」 8月8日:千葉大学予防医学センターとの共同研究 9月25日:在宅医療・介護連携相談プロジェクト事例検討会 12月11日:在宅医療・介護連携コーディネーター養成研修「地域包括支援センターに期待する退院支援の役割」「高齢者の医学管理」 12月26日:在宅医療・介護連携コーディネーター養成研修「在宅医療を担う各職種の役割」 平成30年1月13日千葉県認知症患者医療センター研修会「認知症初期集中支援チームにおける認知症患者医療センターの役割」 平成30年2月6日東葛北部地域リハビリテーション広域支援センター認知症患者医療センター合同連絡協議会 平成30年2月8日松戸市総合医療センターでの在宅医療関連多職種連携会議「3次救急と在宅医療の連携」「在宅医療における糖尿病治療の現状と課題」</p>			
<p>オ. その他【任意・自由記入】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・母体が地域唯一の病院であり地域医療連携に強みを持つ。 ・個別ケースを通じて相談員、病棟看護師、サポート医と連携を図る。 ・地域包括が主催する事業者交流会に医療関係者の出席を依頼しネットワークの構築を積極的に図る。 ・医療関係者の研修会や会議に積極的に参加し顔の見える関係作りをする。 			

8. 認知症高齢者支援

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項	
①認知症の早期把握・早期対応を推進しているか。	4	3.6			
評価の根拠	ア. 包括自身が主体となって認知症初期集中支援チーム事業を実施している/いない	いる			
	イ. 認知症初期集中支援チームにつないだ、または包括自身が認知症初期集中支援チームとして実施した事例の件数(29年度1年間)【件数を記入】	4 件			
	ウ. 認知症初期集中支援チームにつないだ事例(1事例)の概要・センターの対応内容・チームとの連携内容 チームを実施している包括は、支援事例(1事例)の概要・チームとしての対応内容・関係者との連携内容【自由記入】	本人と子の家族との世帯。本人の病気の進行により、夕方になると「家に帰る」と言い、出かけようしたり、突然大声を出すことなどがあり、子が介護を負担に感じていたケース。DASC等、本人に関するアセスメント及び家族の介護負担に関するアセスメントを実施、認知症と整形外科それぞれの専門医への受診につなぐ。また、子との面談により、子の傾聴を繰り返し、心理的負担の軽減に努めた。介護保険申請支援したが本人のサービス拒否が強く、幾つかのサービス事業所の見学を同行し、サービス導入につなげ、ケアマネに引継ぎを行う。			
	エ. DASCを活用した軽度認知症についてのアセスメントを実施し、継続支援につながった件数(29年度1年間)【件数を記入】	10 件			
	オ. DASCを活用してアセスメントを行った事例(1事例)におけるケアマネジメントの内容と実際に行われた医療機関受診・サービス利用・セルフケアの内容【自由記入】	80歳代。自転車で転倒してから閉じこもりがちとなり本人が体力低下や物忘れを心配していた事例。DASCを用いて本人、配偶者とともに現状を確認した。本人と受診同行をし、処方の見直しや残薬の処分など主治医と相談した。短期集中予防サービスを利用しADLの維持向上につながった。自宅で行える体操や脳トレなどをセルフケアとして取り組んだ。ADLの維持向上と気力が高まり、自主的な介護予防に積極的に取り組めるようになった。サービス終了後のDASCの値も改善した。			
	カ. その他【任意・自由記入】	・まつど認知症予防プロジェクトについて、高齢者支援連絡会や小金ケアマネ連絡会等で、事業の周知を行った。 ・地域課題として認知症対策を大きな柱とし、認知症疾患医療センターをはじめとする医療機関や地域のケアマネ、事業所、民生委員などの地域関係者と連携し、認知症の早期把握、早期対応に努める。 ・認知症対策として法テラスなど法律関係者とも積極的に連携し成年後見制度の活用を推進をする。			

②認知症高齢者に対する地域での支援基盤を構築しているか。	4	3.4		
評価の根拠	ア. オレンジ協力員による「専門職と協力しながらの実践活動」の実施件数(29年度1年間)【件数を記入】	22 件		
	イ. アのうち、最も難易度の高いと考えられる実践活動の内容【自由記入】	オレンジ協力員定例会を毎月開催し、認知症の学びとして、認知症看護認定看護師、介護事業所職員、活動実績の豊富なオレンジ協力員等から認知症高齢者に安心してもらえるような対応を学んだり、声のかけ方の訓練を実施した後に、認知症高齢者やその家族を対象とした認知症カフェを開催した。		
	ウ. センターが開催した全ての認知症サポーター養成講座の日程・主な対象者・参加者数【参加者合計・日程・主な対象者・参加者数を記入】	参加者合計 4 回 107 人 12月8日:ふれあいねっとまつどケアステーション 17名 12月14日:松戸市在住の方 42名 平成30年1月27日:オーベル新松戸(マンション住民) 20名 平成30年2月18日:ほのぼの食堂共催 小金地域の小学生と保護者 28名		
	エ. 認知症ケアパスの普及啓発のためにしている具体的方策【自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> ・小金ケアマネ連絡会にて説明・配布 ・小金地区事業者交流会にて説明・配布 ・地域個別ケア会議、地域包括ケア推進会議にて説明・配布 ・オレンジ協力員定例会にて説明・配布 ・個別相談時に活用、配布 ・民生委員児童委員連絡協議会にて説明・配布 		
	オ. 認知症地域支援推進員の配置人数【人数を記入】※平成30年3月末現在の配置数を記入	0 人		
	カ. 認知症地域支援推進員として活動した内容(29年度1年間)【自由記入】※ケアパス検討会等への出席を含む	認知症地域推進員会議に出席		
	キ. その他【任意・自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> ・小金地区のオレンジ協力員を対象とした定例会を毎月開催し、実践活動に必要な勉強会、施設見学等を行った。 ・地域個別ケア会議にオレンジ協力員が出席し、認知症に関連する地域課題について議論に参加した。 ・認知症高齢者声かけ訓練を行った。 ・認知症の支援について幅広い世代に理解してもらう為、子どもと保護者向けに認知症サポーター養成講座を実施した。 		

9. 介護予防ケアマネジメント業務、介護予防支援関係業務

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項
①自立支援に向けたケアマネジメントを行っているか。		4	3.6		
評価の根拠	ア. 自立支援型ケアマネジメント検討会への出席回数(延べ人数)【出席回数・延べ人数を記入】	12回(延べ13人)			
	イ. センターが行うケアマネジメントを通じて、住民主体のサービス、地域の予防活動等につないだ事例(2事例)の概要と対応内容【自由記入】	80歳代。転倒後閉じこもりがちになり体力筋力の低下があったが短期集中予防サービスへつなぎ気力が上がった後に地域の活動につないだ事例。サービス終了後のケアマネジメントとして地域の体操教室を紹介し初回のみ地域包括職員が同行して参加する。また人との交流にも積極的になってきたためNPO法人が主催する行事を紹介し参加される。 60歳代。怪我の後遺症がありADLの低下だけでなく精神的な落ち込みもあった事例。ケアマネジメントを通じて他者との交流についての課題を把握し、通所介護サービスと同時に地域のサロンもプランに記載した。サービスが順調に進んでいく中で精神面も回復し、サロンで手芸などを楽しまれた。今後はさらに就労を目指していきたいと話された。			
	ウ. センターが行うケアマネジメントを通じて、短期集中予防サービスなどにつなぎ、心身機能の改善につながった事例(2事例)の概要と対応内容【自由記入】	80歳代。身体の機能低下を自覚するようになり、介護保険は使わず、自宅で元気に過ごせるようトレーニングしてみたいとのことで短期集中予防サービスを利用した。24回休まず参加し、終了時の基本チェックリストで運動機能面が改善された。終了後はジムに通い始めることができるほど改善した。 70歳代。2度の手術以降閉じこもりがちな生活になり、下肢筋力の低下や意欲低下があった。夫婦で地域包括に来所し基本チェックリスト、アセスメントを行い、短気集中予防サービスへつなぐ。サービスの利用を開始してから体力筋力の向上が見られ、週3回1時間程度の散歩に出るなど積極的に外出するようになった。サービス開始前後の測定結果はわずかな改善だが気力が上がったと本人も話し、積極的に物事に取り組むようになった。			
	エ. ケアマネジメント作成件数(29年度1年間)【件数を記入】	1件			
	オ. 一般的なケースにおけるモニタリングの実施頻度と実施内容【実施頻度と実施内容を記入】	1ヶ月に一度の訪問し、本人、家族からプラン目標の進捗状況や疾患、怪我などの最新の医療情報、家族関係の変化などを確認する。また毎月、事業所から電話、FAX等にてサービスの利用状況や本人の状態変化について確認する。			
カ. その他【任意・自由記入】	・地域資源に関する情報収集を行い、ケアマネジメントに生かしている。 ・介護予防手帳や元気応援シート、松戸市版アセスメントシートを活用しケアマネジメントに活かしている。 ・毎月、自立支援型ケアマネジメント検討会に出席し自立型のケアプラン作成に努めている。				

②居宅介護支援事業者へのケアマネジメントの委託を適正に行っているか。		4	4		
評価の根拠	ア. ケアマネジメント業務の委託先選定時に公正・中立性を担保するために行っている具体的方法【自由記入】	ケアマネジメントの依頼状況を台帳管理し、委託した居宅介護支援事業所名や担当者名を把握している。台帳には委託した事業所の選定理由、日付けも記載している。台帳を確認しながら偏りなく依頼できるように配慮している。			
	イ. 居宅介護支援事業者へ委託した場合の台帳及び進行管理が行われている／いない	いる			
	ウ. 居宅介護支援事業者へ委託したケアプランの達成状況の評価の確認を行っている／いない	いる			
	エ. 委託先の安定的な確保のために講じている具体的な方策【自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> ・委託事業所への定期的な訪問による顔の見える関係作り。 ・小金地区事業者交流会にて地域内外の居宅介護支援事業所と積極的に関係作りを図っている。 ・小金ケアマネ連絡会を開催する中で委託プランについての相談助言を行う。 			
	オ. その他【任意・自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> ・主任ケアマネの研修会及び、法定外の研修に積極的に参加し、ケアマネ支援の対応力強化を図っている。 ・約70%の委託率。 ・サービス利用者の意向を尊重しながら公平な委託先の選定に努める。 			

10. 松戸市指定事業

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項	
①松戸市指定事業を適切に実施しているか。	4	3.3			
評価の根拠	<p>ア. センターが開催する介護予防教室(体操教室等)の</p> <p>①参加総数(29年度1年間)及び</p> <p>②最も参加者が多かった教室の日程・内容・主な参加者層・参加者数</p> <p>【参加総数・日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】</p> <p>【月報の件数を記入】</p>	<p>①参加総数 (593)人 開催(24)回 (平均 25 人/回)</p> <p>②最多教室の状況</p> <p>9月26日小金市民センターにて松戸東警察署職員による詐欺被害防止の講座。65歳以上の小金地区高齢者43名参加。</p>	/		
<p>イ. センターが開催する認知症予防教室の</p> <p>①参加総数(29年度1年間)及び</p> <p>②最も参加者が多かった教室の日程・内容・主な参加者層・参加者数</p> <p>【参加総数・日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】</p> <p>【月報の件数を記入】</p>	<p>①参加総数 (56)人 開催(3)回 (平均 19 人/回)</p> <p>②最多教室の状況</p> <p>・10月6日①認知症看護認定看護師による「専門ナースが教える認知症予防」②力を合わせて認知症予防パズルを組み立てよう 19名</p> <p>・10月13日①ウォーキング研究所講師による「ウォーキング」②教室参加後の活動案内③基本チェックリストの実施 19名</p> <p>以上2日間は同名の最多参加教室。いずれも10月6日、10月13日、10月19日の3日間で開催したうちの2日。参加層は、市内在住の概ね65歳以上、3日間全てに参加できる方。</p>	/			

<p>ウ. センターが開催する介護予防普及啓発活動の参加総数(29年度1年間)及び日程・内容・主な参加者層・参加者数 【参加総数・日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】 【月報の件数を記入】 ※ア. イは含まない</p>	<p>参加総数 (16)回開催(323)人 ・ウォークラリー実施に関する説明会 4月21日小金包括圏域の介護保険事業者で申込みのあった業者(3名) 4月28日(小金げんき友の会会員他、27名) 5月18日(小金げんき友の会会員他、22名) 5月29日(小金げんき友の会会員他、18名) 8月1日(小金げんき友の会会員他、25名) 9月13日(小金げんき友の会会員他、13名) 9月21日(小金げんき友の会会員他、9名) 10月5日(小金げんき友の会会員他、32名) 10月31日(小金げんき友の会会員他、22名) 11月29日(小金げんき友の会会員他、21名) ・9月22日幸田市営住宅介護予防教室(幸田市営住宅住民、8名) ・12月22日介護予防教室(市内在住概ね65歳以上の方、30名) ・平成30年1月30日小金げんき友の会運動測定会実施について(小金げんき友の会会員他、21名) ・平成30年2月19日小金げんき友の会運動測定会に関する打合せ(小金げんき友の会会員ほか、21名) ・平成30年2月23日認知症高齢者声かけ訓練(オレンジ協力員他、20名) ・平成30年3月16日小金春の運動測定会(小金地区在住概ね70歳以上の方、小金げんき友の会会員、オレンジ協力員他、31名)</p>			
<p>エ. ボランティアの育成の具体的な実施方策【自由記入】 (高齢者支援連絡会等既存のボランティア育成を記載。オレンジ協力員の支援は含まない)</p>	<p>・高齢者支援連絡会(運営部会)に職員2名が参加。 地域での見守り活動に対する助言や制度説明等適宜行う。年10回 ・高齢者支援連絡会交流会に参加し、地域課題の共有や助言を行う。年2回 ・小金地区在住の高齢者を対象として「小金げんき友の会」を発足し、ウォークラリーや運動測定会などのイベントを企画から運営まで支援する。</p>			
<p>オ. 申請代行業務(サービス利用の申請代行、住宅改修の助言・理由書作成等)の実施件数 (29年度1年間)【月報件数を記入】</p>	<p>介護保険認定申請代行: 92 件 住宅改修の助言・理由書作成: 1 件 その他:(公的サービスの利用申請): 12 件</p>			
<p>カ. 各種保健福祉サービス・介護サービスの普及啓発の具体的な実施方策【自由記入】</p>	<p>・老人会や自治会などを対象とした介護保険サービス等の出前講座を開催する。 ・高齢者支援連絡会定例会・交流会、民生委員児童委員連絡協議会などでサービスの説明を行う。 ・総合相談時に松戸市在宅高齢者向け保健・福祉サービス一覧を用いて説明している。</p>			